

19

# 会 誌

第 19 号

昭和 54 年 2 月

卷 頭 言..... 小 林 貞 作

研究発表

1. 閉鎖空間におけるスズメの営巣能力..... 大 田 保 文 1
2. 白木峰・小白木峰の池塘の藻類..... 安 井 一 朗 9  
志 垣 修 介
3. ヨーロッパの植物標本庫について..... 佐 藤 卓 25
4. 脊椎動物の歯の構造について..... 坂 下 栄 作 30
5. 東笠山・寺地山の湿原植生..... 本 多 省 三 36  
本 多 啓 七

野外研修会報告..... 43

本会記事..... 46

会 則..... 47

会員名簿..... 49

編集後記..... 53

## 富山県生物学会

## 巻 頭 言

会 長 小 林 貞 作

このたび富山県生物学会誌第19号の発刊を迎えるにあたり、本学会の活動を推進して来られた会員諸氏に対して、深く敬意を表する次第です。これでまた、本学会の歴史の1頁を刻むことができ、まことにご同慶に耐えません。

近時の低経済成長に伴って、人間の生活環境や福祉政策の見直しの時代に入った感がある。この時期こそ生物学の発展にとっては好機と言わざるを得ない。すなわち、過去における駆け足の高度経済成長の時期には、振り返る暇もなかった生物界のアンバランスを、今度こそは十分これを見つめて、バランスのとれた生物環境づくりを力強く推進していかなければならないと思うのである。

われわれの生活の生みの親ともいべき自然の山河は、とても破損してしまった。人間活動による世の中の進歩というものは、あくまでも自然状態を荒廃させてはならないのである。進歩は破壊ではない。これはむしろわれわれの生活に対して、快適な環境となってはね返って来なければならぬ筈のものである。物質文明だけを追って自然破壊が悪環境にするならば、やがて人類も地球も死んで行くであろう。ここに調和共存の意義があるのではあるまいか。

上記の意味において、本生物学会の活動は学術的に無限に続けていかなければならない。第19号の発刊は、その躍進を意味するもので、これを祝福すると共に今後いっそうの御協力をお願いする次第である。